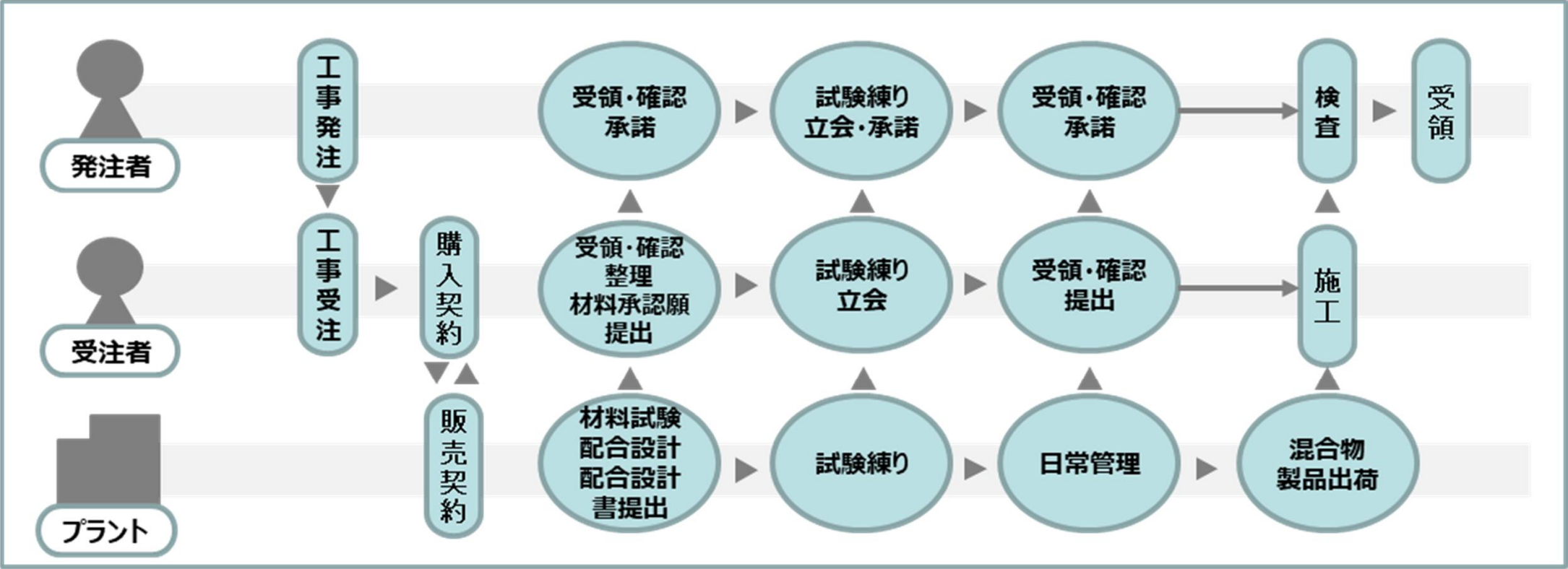


工事におけるアスファルト合材の流れ

- ・ 工事発注から引き渡しまでの流れ
- ・ アスファルト合材の事前審査制度の概要
- ・ 事前審査制度を活用する場合としない場合の違い
- ・ 工事受注者による確認
- ・ 発注者による確認

工事発注から引き渡しまでの流れ

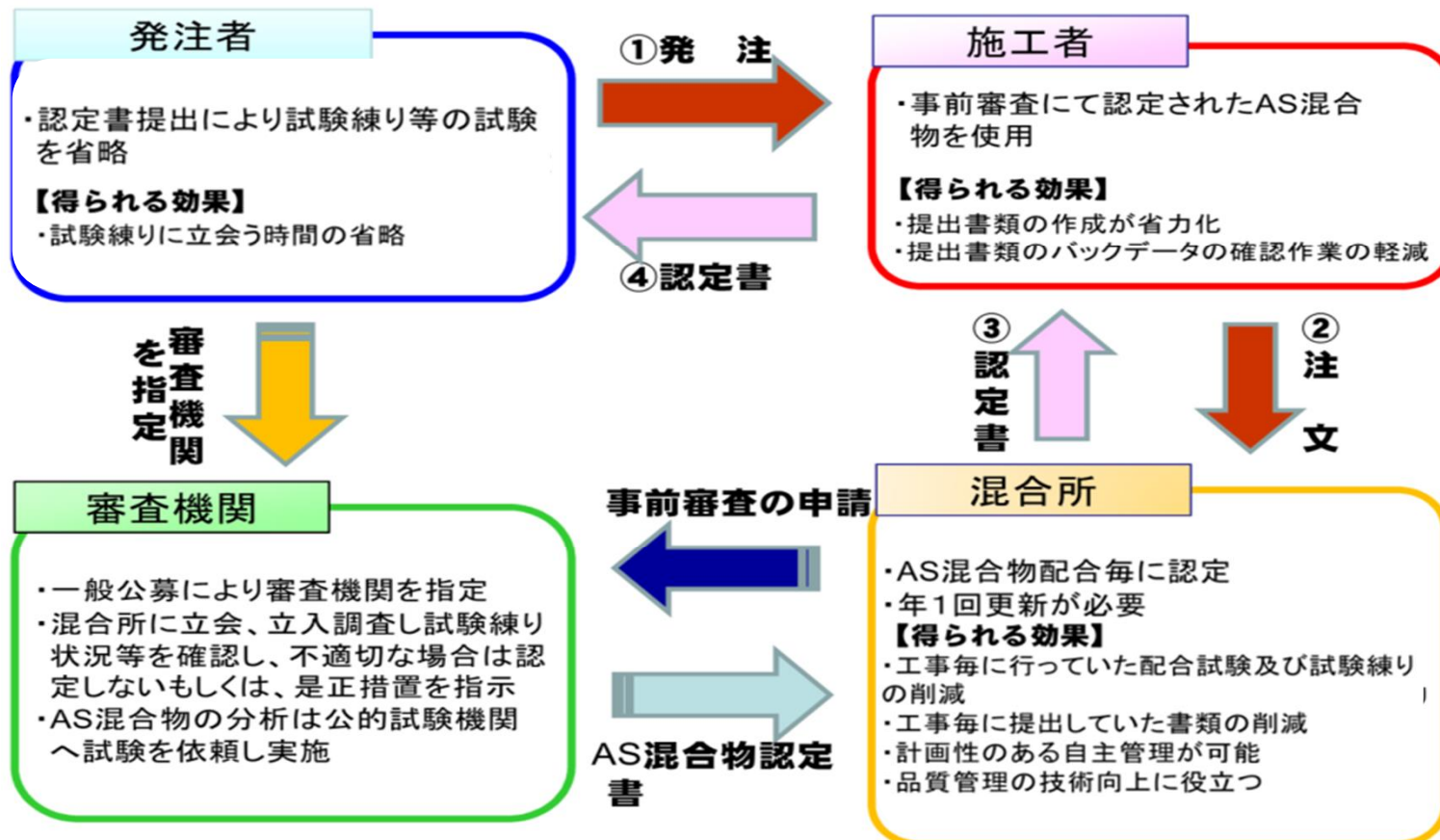
- 発注者は、設計図書でAs合材の仕様を規定し発注。
- 受注者は、設計図書に規定された仕様に基づき、プラントとAs合材の購入契約を締結。
- プラントは、材料試験及び配合設計を行い、配合設計書を受注者に提出。
- 受注者は、プラントから提出された配合設計書を確認・受領し、発注者に材料承認願いを提出。
- 発注者は、材料承認願いを確認・受領。
- プラントは、発注者・受注者立ち会いのもと試験練りを実施し、試験成績表を提出。
- 発注者は、試験練りの結果を確認し、合材を承諾。その後、As合材を受注者に出荷し、受注者が施工。
- 発注者は、検査を実施し受領。



アスファルト合材の事前審査制度の概要

- アスファルト合材の事前審査制度は、プラント(混合所)から出荷される合材を審査機関が事前に審査認定することで、工事毎、混合物毎に実施してきた試験練り、品質の確認を省略できる制度。
- 本制度の運用により、発注者、施工者、プラントの業務の合理化、省力化、合材の品質確保を図るもの。
- 認定された合材の認定書の有効期間は1年であり、年1回審査認定を実施。
- 本制度は、北海道・四国を除く全国8ブロックで導入(審査機関は(一社)日本道路建設業協会地方支部等)。

事前審査制度の流れ



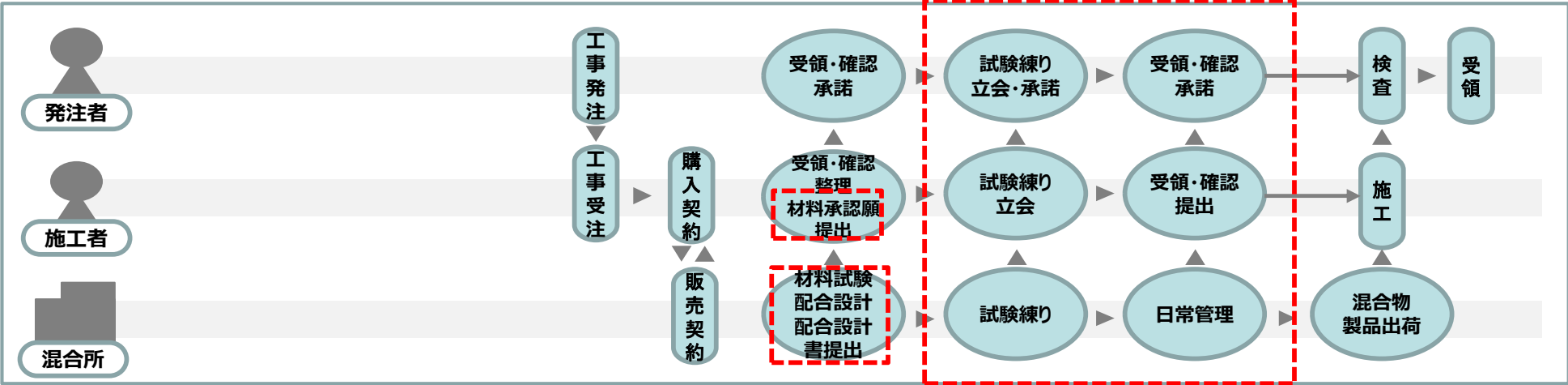
立会・立入状況



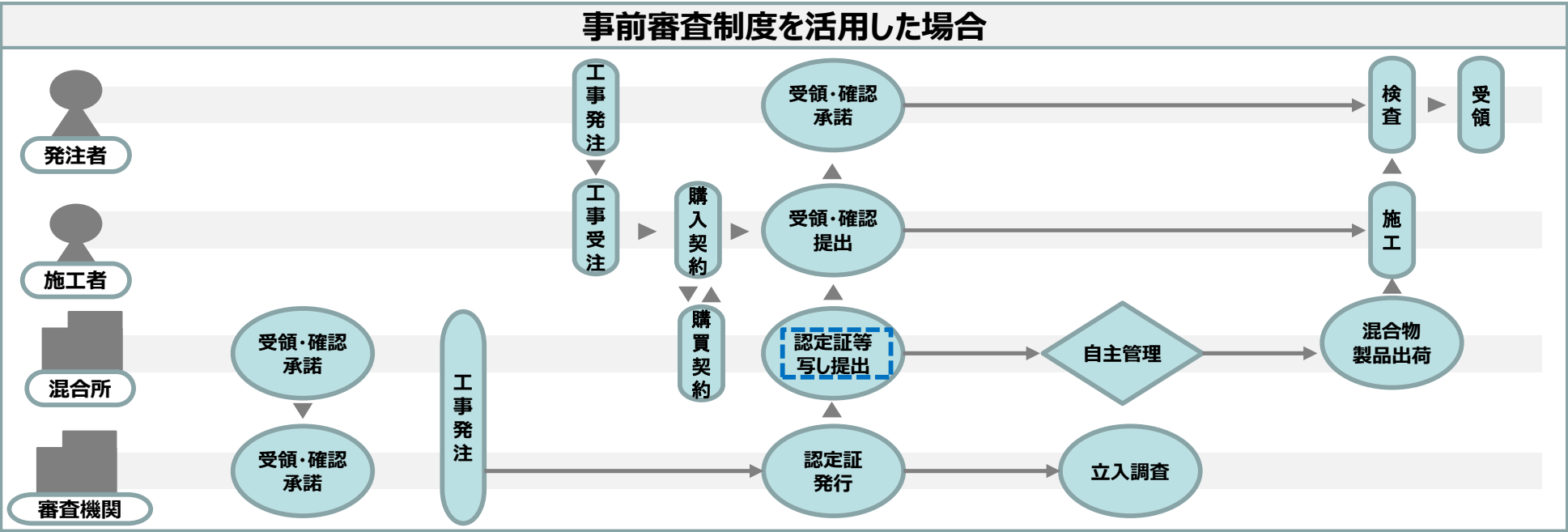
※国交省だけでなく、各ブロックの委員会に参画している発注機関も適用。
※導入時期は各ブロックによって異なる。
※審査機関は公募にて選定。(審査機関の公募は4年に1回)

アスファルト事前審査制度を活用する場合と活用しない場合の違い

○ 事前審査制度で認定されたAs合材を使用する場合は、認定証等の写しを発注者に提出することにより、試験練りの実施、試験成績表の提出を省略。

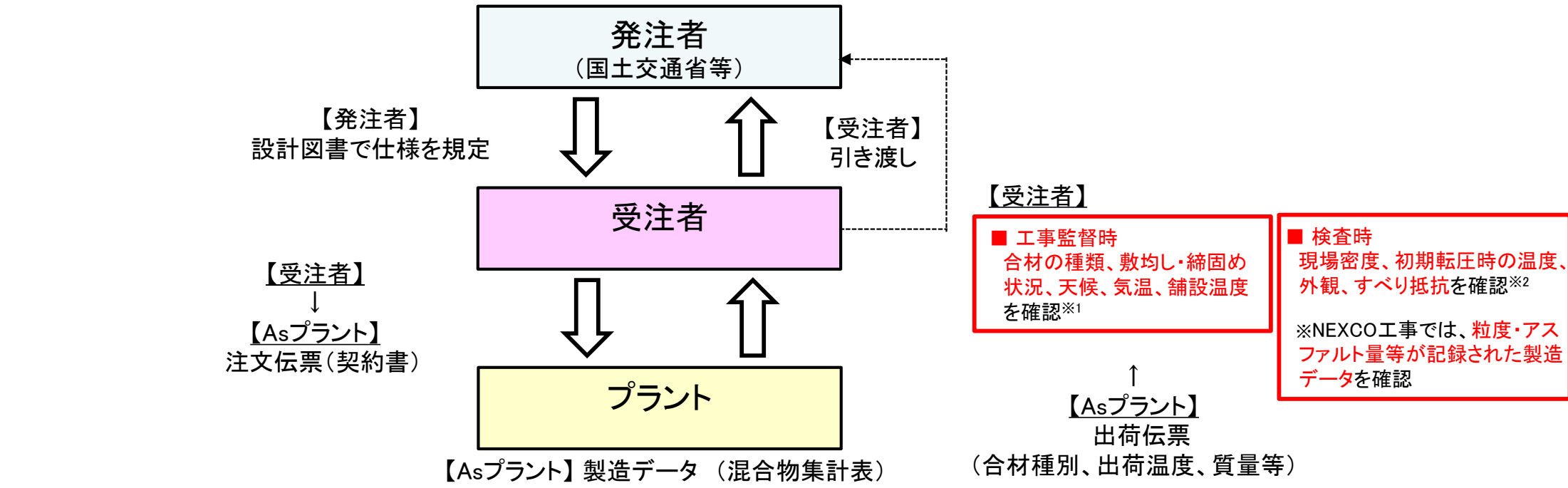


事前審査制度を活用する場合は省略



工事受注者による確認

- 施工時は、「使用材料(合材の種類)」、「敷均し・締固め状況」、「天候」、「気温」、「舗設温度」を確認。
 - 検査時は、「現場密度」、「初期転圧時の温度」、「外観」を確認。
- ⇒いずれの確認項目においても再生骨材が混入した場合、それを把握することができない※。
- ※NEXCO工事では、製造データを確認しているが、内容を書き換えられていた場合は把握できない。



※1: 土木工事監督技術基準 別表2 施工状況把握一覧(抜粋)

種別	細別	施工時期	把握項目	把握の頻度
舗装工	路盤、表層、基層	舗設時	使用材料、敷均し・締固め状況、天候、気温、舗設温度	一般: 1回/工事 重点: 1回/3000㎡

※2: 品質管理基準及び規格値(抜粋)

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	摘要
14 アスファルト舗装	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧	基準密度の94%以上 X10 96% X6 96% X3 96.5% 歩道箇所: 設計図書による	(★)	・橋面舗装はコア採取しないでAs合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さで密度管理、または転圧回転数による管理を行う。
14 アスファルト舗装	舗設現場	必須	温度測定(初転圧前)	温度計による	110℃以上	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)
14 アスファルト舗装	舗設現場	必須	外観検査(混合物)	目視		随時	

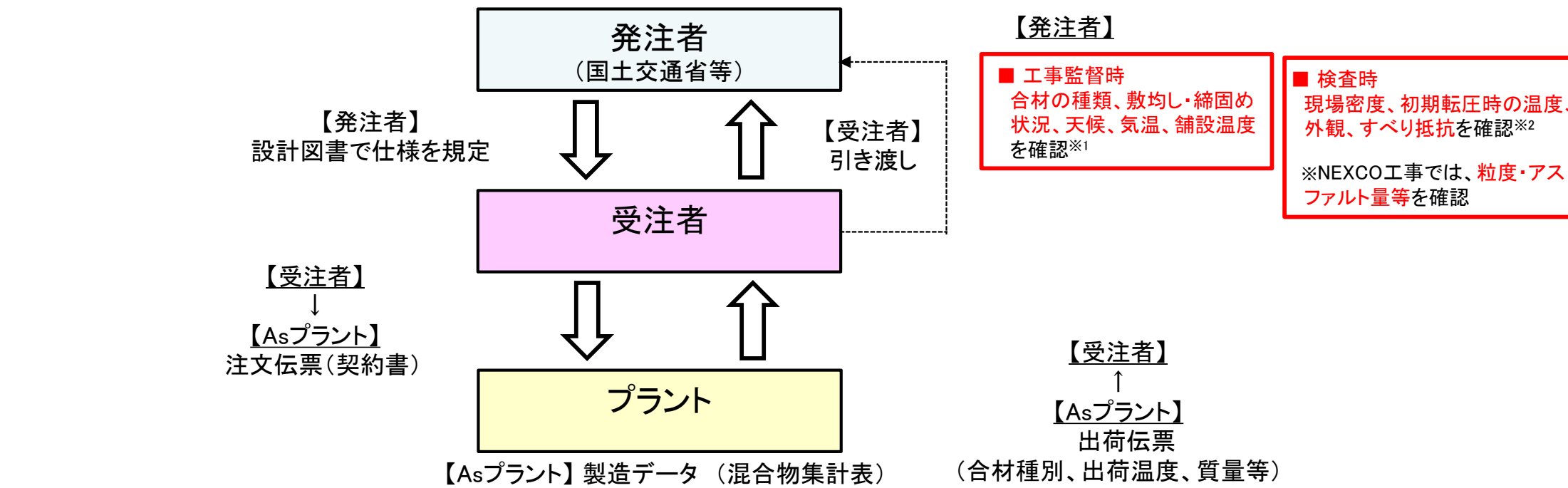
(★): ・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。
・締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。
・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。

発注者による確認

- 施工時は、「使用材料(合材の種類)」、「敷均し・締固め状況」、「天候」、「気温」、「舗設温度」を確認。
- 検査時は、「現場密度」、「初期転圧時の温度」、「外観」を確認。

⇒いずれの確認項目においても再生骨材が混入した場合、それを把握することができない※。

※NEXCO工事では、粒度・アスファルト量等を確認することとしているが、内容を書き換えられていた場合は把握できない。



※1: 土木工事監督技術基準 別表2 施工状況把握一覧(抜粋)

種別	細別	施工時期	把握項目	把握の頻度
舗装工	路盤、表層、基層	舗設時	使用材料、敷均し・締固め状況、天候、気温、舗設温度	一般: 1回/工事 重点: 1回/3000㎡

※2: 品質管理基準及び規格値(抜粋)

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	摘要
14 アスファルト舗装	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧	基準密度の94%以上 X10 96% X6 96% X3 96.5% 歩道箇所: 設計図書による	(★)	・橋面舗装はコア採取しないでAs合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さで密度管理、または転圧回転数による管理を行う。
14 アスファルト舗装	舗設現場	必須	温度測定(初転圧前)	温度計による	110℃以上	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)
14 アスファルト舗装	舗設現場	必須	外観検査(混合物)	目視		随時	

(★): ・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。
・締固め度は、10孔の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10孔の測定値が得がたい場合は3孔の測定値の平均値X3が規格値をはずれた場合は、さらに3孔のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。
・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10孔で測定する。